平成 23 年 8 月 17 日

各　位

会 社 名　株 式 会 社 キ ャ ン バ ス
代表者名　代表取締役社長　河邊　拓己
（コード番号：4575　東証マザーズ）
問合せ先　取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住　眞（電話 055-954-3666）

CBS9106 作用メカニズムに関する論文の Blood 誌への掲載について

血液領域の著名な論文誌「Blood」※1 オンライン版に、当社が開発中の抗癌剤候補化合物 CBS9106 の作用メカニズムに関する論文が掲載されましたので、お知らせいたします。

抄録（英文テキスト：どなたでもご覧いただけます）
http://bloodjournal.hematologylibrary.org/content/early/2011/08/12/blood-2011-01-333138.abstract?sid=ea017f85-840e-4f3f-8077-31417e8aaa63
本文（英文 PDF：登録（有料）が必要です）
http://bloodjournal.hematologylibrary.org/content/early/2011/08/12/blood-2011-01-333138.full.pdf+html

本論文の要旨は以下のとおりです。

- CBS9106 は核外輸送因子 CRM1※2 を阻害し、多発性骨髄腫を含む幅広い癌細胞株に対して、細胞周期停止およびアポトーシスを誘導すること。
- CBS9106 は既存の CRM1 非可逆的阻害剤のレプトマイシン B と同じく CRM1 蛋白質（システイン 528）へ結合するが、その作用は可逆的でありレプトマイシン B に比べて毒性が低いこと。
- さらにモデル動物を用いた試験においても、CBS9106 は経口投与により癌増殖抑制及び生存期間延長効果を示すとともに、毒性が低いことを示唆するデータが得られていること。

これらの結果により、CBS9106 は、CRM1 の可逆的阻害作用をもつ有望な新規クラス※3 の抗癌剤候補と考えられます。

当社代表取締役社長 河邊拓己は、次のとおりコメントしています。
「今回掲載された論文の内容は、当社独自の細胞表現型スクリーニングを用いて同定した CBP9106 の抗癌作用メカニズムを明らかにしたものです。CRM1 阻害剤として臨床で使用されている抗癌剤は未だなく、将来、CBS9106 が新規クラスの抗癌剤として、多発性骨髄腫等の治療満足度の低い癌の患者さまの有効な治療選択肢となることを目指し、まずは臨床試験を早期に開始できるよう努めてまいります。」

以　上

※1　Blood
米国血液学会（ASH：the American Society of Hematology）が出版する、世界的に著名な血液領域の専門論文誌です。

※2　CRM1
CRM1は、核外輸送シグナル(NES)をもつ輸送基質（蛋白質、mRNA-蛋白質複合体）を核から細胞質へ輸送する役割を担う、細胞内因子の一つです。

※3　クラス
「大分類」を意味する語で、医薬品の領域では、同一もしくは類似した作用メカニズムを持つ薬剤群を総称して用いられます。